

京都教区時報

小教区の頁一亀 山 教 会
特 集—社会と共に歩む人物記

第80号

発行所

京都市左京区仁王門通新高倉東入

京都カトリック教理センター

広報室 (Tel761-9095)

編集責任者 村上透磨

編 集 部 教理センター

田中司教認可

田中司教アツピール

平和を願うみなさんへ

本二回国連軍縮特別総会といって、世界各地で、又日本国内でも、核兵器完全禁止と世界的軍縮の早期実現を願う運動が盛り上っています。私達、京都教区におきましても、日本カトリック司教団の呼びかけに喜んで応え、その署名運動に協力いたしました。が、「社会と共に歩む教会」の教区ビジョンを生きよう

核兵器反対 平和行進



とする私たちも、これを単なる署名に終らせずにむしろ出発点として平和を作り出す祈りと活動を一層ねばり強く展開したいと思えます。

「過去を振り返ることは、将来に対する責任をなうことです」。また「広島を考えることは、核戦争を拒否することです」。こ

の「教皇ヨハネ、パウロ二世平和アピール」は唯一の原爆体験の国民である私たちに特に課せられた使命と思い、これを真剣に受けとめたいと思います。そのため核兵器に反対し、軍縮を訴える運動をしようではありませんか。またこの運動が含みをもつ人類の尊厳さを守り、神が望まれる新しい世界の秩序を作り上げる輪を広げようではありませんか。

このことを願い、下記の祈禱会と行進を計画いたしました。京都の街を歩きながら、そこで出会う多くの市民ともどもこれらの問題を、私たちの信仰と身近な生活の場で受けとめ、その中で平和建設の努力を続けることをお互いに約束し合いたいものであります。

親愛なる教区のみなさん、更にこの問題を深く考え折ることを願う市民のみなさん、どうか多数お集り下さい。

主における神の恵みがみなさん一人ひとりに豊かにありますように。

〔平和行進〕

以上の様な田中司教のアツピールに答え、去る6月6日(日)午後一時半、信愛幼稚園々庭に集まり、平和のミサ。続いて3時より、十字架を中心に「平和祈禱行進」「核兵器反対」ののほりを先頭に、侍者、司教司祭団、修道女、各教会約500名が、河原町通り、四条通りを通り、円山公園まで行進。「一つの生命は全世界の富より重い」「広島長崎を忘れるな」等と書いた手作りのプラカードを持ち、連呼なしの聖歌を歌っての静かな行進であった。キリスト教協議会協賛で行われたこの集いに、カトリック以外の諸教会の参加もあり、核兵器が廃絶され、より安全な平和が訪れる事を祈り求めた。

教区短信



7月21日(木) 特老神の園 創立10年
8月6・8日 教会学校教師夏期研修会(於河原町)
8月15日(日) 聖母被昇天祭、長岡新聖堂献堂式、SSD誓願式
8月22日(日) 京都南部青年の集い(於北白川)
8月24・27日 教区内司祭、修道士の研修会(於伊豆)

8月24日・26日 青年宗教者の集い(於伊勢神宮道場・諸宗教)
9月6日(月) 司祭評定例会
9月7日(火) 教理センター理事会
9月12日(日) 奈良堅信
9月19日(日) CBSサンデー(大津)
9月20日(月) 教区付邦人司祭月例会
9月23・25日 信徒使徒職担当司祭の全国大会(八王寺)
9月26日(日) 大和高田堅信

こんなに元気に なりました



昨年10月19日心筋硬塞で入院、療養されていた古屋司教は、5月6日退院、司教ハウスで静養中。環状動脈二本が切れ、心臓が働いていない状態であれば、今後主治医の指示どおり養生されるよう教区民あげてお祈りしたい。24時間体制の看護を受けられ、一日三人の面接制限があっても、談笑の後は「あ、ア、シンド」のおこたばが出る由。人との交わりを大事にされ、また楽しみにもしていられた司教にとつては面接制限は大きな犠牲。もっと早くよくなって下さい。(Y)

教区ビジョン実現に向って

6月26日、27日、実現推進母体をつくるための合宿が、田中司教はじめ司教、修道女、信徒(19名)計26名が集まり、北白川教会において行われた。

決議事項要旨は次の通り。

- 1) 名称・京都教区ビジョン推進連絡協議会
- 2) ブロック数、六ブロック
- ① 京都府北部 ② 同南部 ③ 滋賀県
- ④ 奈良県 ⑤ 三重県 ⑥ 諸活動グループ
- 3) 機能・各ブロック間の連絡調整。

* 尚その主機能の中に、ビジョン普及、浸透、推進、情報交換、指針、刷新の指導、横の立場への理解と分ち合い、励まし(指しつけにならぬこと)等の働きを入れてほしいこと

* 又、当協議会は、問題を設定するまでの働きで、問題解決は例えば司牧協議会と設置しそこに委ねる。

- 4) 各ブロック代表者数、原則として六名、内、司教修道女各一名、信徒四名(内婦人、青年を入れる)を原則とする。
- 5) 代表選出期限、昭和57年10月31日。
- 6) 代表者選出方法。旧ビジョン作り合宿参加者と新しい人をどう扱うかは各ブロックで一任する
- 7) 事務局、事務局を設置する

- (1) 事務局の機能は当面、協議会の日程スケジュール、討議の整備報告
- (2) 他教区との関係処理
- (3) 事務局員の選定、齊木師が責任をもつて各個に問い合わせて選定する
- 8) 協議会発足の時期。各ブロック代表者選定後、才一回協議会を開き発足
- 9) 付帯決議

- (1) 協議会の運営委員会を作るかどうかそれと事務局の関係をどうするか
- (2) 教区レベルの問題解決のための機関(司牧評議会)をどのように作るか
- (3) 協議会を開く回数、場所など
- (4) その他、生じてきた諸種の事柄に関する処理。

内藤ジョアン

家康のキリスト教禁令にふれ、高山右近とともにルソンに流され、七十余歳の

生涯を異国の地で閉じた内藤ジョアン。室町時代末期、天文年間丹波に生れ、十五才の頃、宣教師ルイス・フロイス神父の洗礼を受けた彼は、才覚優れた武将であった文祿の役の際、秀吉の名代として中国・明王との間の和平交渉をまとめて功があった。高山右近と並んで海外に広く知られるキリシタン大名、内藤ジョアンの遺徳を偲んで6月8日、府下船井郡八木町で顕彰碑の除幕式が行われた。

国内ではあまり知られぬジョアンの足跡をたどり、その偉業をつたえようと、地元郷土史家らでつくる八木城研究会の後援があつて、八木城址のふもとに建立された。式にはガスバリ、パチカン駐日大使、田中司教臨席のもと、同研究会、キリスト者、一般住民約二百人が出席。園部町の聖家族高校聖歌隊が聖歌をうたいあげ、中、ガスバリ大使、田中司教入場、園部町長と共に幕がひきおろされると「あなたの愛を永遠に祝福する」と刻まれた碑が姿をあらわした。ガスバリ大使は、



ヨハネ・パウロ二世の言葉を引いて殉教者ジョアンを日本語で「十字架は愛と平和のシンボル」とたとえ、挨拶。歓迎会に臨み喜びを共にした。

バチカン大使丹後に!



6月6日、8日まで、バチカン大使、マリオ・ピオ・ガスバリ大司教を丹後に迎えしたのは三十数年ぶりの事です。

西舞鶴教会の早朝ミサには、三百名近い人で聖堂はいっぱいになりました。綾部、報恩寺、福知山等々、各地の信徒が馳せ参じたからです。大使は日星高校、聖母幼稚園、老人ホーム寿荘を巡視され、どこも暖かい歓迎の波でした。又、大使は宮津晩星幼稚園、加悦、岩滝教会等を巡視された。八日早朝七時には、網野、峰山、大宮、岩滝、加悦の信徒が集まり盛大に聖体祭儀を祝いました。

私たちはバチカン大使を歓迎できたこと、大使と直接信仰を分かち合えたこと、よるこびは、一つの勇気を与え、誇りを与えてくれたと確信します。それはペトロの座との絆です。教皇、それは私たちの信仰の一つの印ですが。(文責近藤)

全国カトリック障害者連絡協議会

設立総会。7月17日4時〜18日3時

カトリック障害者、病者の人々は、生きるキリストの共同体の一員として、人間の生きざま、ありよう、社会のありようを追求して使徒職の一端をにない活動してきたが、全国的組織にまで至らなかった。

そこで、国際障害者年を機に、全国のカトリック障害者、病者が一挙に会し、交流すると共に体験を分かち合い、全国の埋もれている障害者、病者に社会参加を促し、志を同じくする全国のすべての仲間と手をたずさえ、力を合わせて、社会の福音化をめざすと共に、ともに生きる教会、ともに生きる社会づくりを、人間みな兄弟、姉妹の精神にもとづき愛の実践により実現したいと願い、本協議会を設立することになった。

本大会では、本協議会設立と、向う三年間の活動方針を決める。

そこではまず、障害者の実態把握。その数々の要望をきかなく出し合い、家に閉じ込められがち障害者の人々が教会に向き、自由に話し合える場を作る事などを目標とする等。

本会で出された種々の要望(ニード)を今後の新しい活動方針が生み出される。

後援は、カトリック日本司教団 カリタスジャパン、京都司教区

協力は、子羊友の会 高野教会

社会とともに歩む教会として、健常者が何かしてあげるのではなく、互いに貢献し合う、謙虚な愛に満ちた支え合いによって、同じキリストに愛された兄弟として、ともに生きるために、この会の発展を折り協力し合いたいものである。

子羊会例会大津で

6月27日、大津教会で子羊会例会が行われた。毎月水曜日午後一時から行われる例会は、普段は高野教会で行われている。各教会では幾人かの障害者の方がいられると思うが、その方々のためにもいろ／＼な教会に向いて例会を設けていたきたい。但し其際、この方々を受け入れる事の出来る教会が教区内でいくつあるだろう。少くとも障害者用の便所車椅子で自由に出入り出来る、スロープのある教会。これは教区ビジョンを発表した時、某新聞の記者が、社会とともに歩む教会というビジョンを打ちだした。今例えば、障害者が自由に出入り出来る教会はいくつあるだろうか、という疑問を投げかけられた事を思う時、教区として各小教区として、具体的な対策がさつそく打ち出されるべきではなからうか？

金祝(修道誓願)

神の母ガブリエル三木望(日本名)大文字のふもとカルメル会修道院設立当時より、私達のために祈りと献身の毎日を送り、私達の下に下っている修母に感謝すると共に、この修道院の中にあつて私達を守り支えて下さっているシスター方、この機会に特に感謝しよう。

Brドミニコ(男子カルメル会)

ブラザーは黙想の家で除の力として、黙々と主の栄光のため働いておられる。

CBS指導者セミナー

カトリックスカウト(CBS) 京都教区支部では6月13日「オ三回支部指導者セミナー」を、大津教会幼稚園ホールに於て、指導司祭岡田師及びCBS会長山口英一氏を講師にむかへ開催された。

このセミナーには教区内の教会本部をもつボーイ、ガール両スカウト団の指導者に、カトリック団の指導者として資質向上と自覚の喚起を目的とされ、36名の指導者が参加した。

参加者全員が岡神父のごミサにあずかると共に、各講座も祈りの内にすすめられた。スカウト運動の中でのカトリック団の重要性、教会の内でのスカウト活動の在り方、聖書とスカウト活動の関り等、熱心な意見の交換が行なわれた。

なお当支部では「オ三回支部カトリックスカウトの日」として9月19日(日)、大津教会を中心会場として開催を準備している (文責中井恭三)

お知らせ

●祝創立二五〇年 レデンプトール会
●大和高田 汚れなきアリア修道会
●シャトル聖パウロ会と交響

●六月六日 反核運動に御協力下さい
ましてありがとうございました。
平和教育研究、推進プログラムとして映画「人間を返せ」「予言」を御利用下さい。お問い合わせは京都カトリックセンターアネックス
Tel 075-7611-9095

田中健一司教認可

祈禱書「祈の友」

第4版 P624

発売元 ◇ 宇治カルメル
取扱い ◇ 三条YBU書房

* 修道院直接御注文の際
3部以上 10%
20部以上 20%
50部以上 25% 割引

製菓材料・舶来食品
和洋酒・修道院製クッキー
ミサ用ブドー酒

タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通烏丸東入
電話 (221) 0976-7

帰天

トマス・藤堂師(九条教会主任)



5月24日午後7時7分、ガン性腹膜炎のためオ一日赤病院で死去、52才。

師は昭和4年11月12日台北に生まれ、昭和23年津教会で受洗。昭和26年東京カトリック神学院入学、昭和34年司祭叙階、八条、河原町助任、西院主任、河原町助任を経て、昭和48年より九条主任。

教会司牧のかたわら、洛星高校で、倫理社会の非常勤講師として生徒達に慕われた。教区の典礼委員として教区ぐるみの儀式には必ず式長として仕え、今年はじめの松田師の死去に際しては式長をつとめられた。其他SVF、神学生養成担当、司祭評議員、法人責任役員、教区ビジョン事務局員等教区のため尽された。師はよく気のつく人で、気を使うのが私の趣味だ等とよく云っておられた。通夜は25、26日九条教会、27日河原町教会で、葬儀ミサは28日午後1時より、河原町で田中司教主式、約70名の共同式、約700名の信徒の参加によって盛大に師の生前の功績を感謝した。友人の井上洋治師(東京教区)は説教の中で、「彼は神の道具に徹して司祭生活を完了した」と師をたたえた。闘病の中の師の姿や語られる言葉は感動を与えるもの多く、聖土曜日には病室にあつて、小さな復活ローソクをかかげながら「キリストの光」と唱え祈られた姿、聖体を受けられた時の感動的な姿等。師の冥福を祈りたい。

お知らせ

●エンカウンター

注エンカウンターは「出会い」と訳され、真の出会いを生み出すための一種の練成会である。

10月9日(於、売布黙想の家)

マリツジ・エンカウンター

8月3日(於、奈良教会)

中学生エンカウンター

申込み 奈良教会(Tel 0726 394)

●司祭修道師研修会

8月24日(27日、伊豆大川国労センターにおいて、教区内に働く司祭修道者の研修会が行われる、これは昨年に続くもので、是非今年もと言う事で行われるものである。テーマ其他について準備委員会検討中であるが、相次ぐ教区司祭の死去、高令化に伴い、司祭の現状と宣教司牧の見直しが教区ビジョンを考慮した上討議される予定である。この集いは、司祭間の交流にも大いに役立つものと期待されている。

●「今年も歩こうウォーカーソン」

今年も11月3日、京都ウォーカーソンを行います。詳しいことはまた後程お知らせします。

●勉強会「社会と共に歩む教会」

9月12日「教会の社会的教へ」

10月10日「難民、流民」

時場所 1時~4時、カトリック会館

●信徒使徒職養成コース 基礎コース

時、10月8日(11日 宮津市橋立荘 申込みは教理センターへ)

司教の足どり

五月~七月



(藤)は藤堂師見舞

5月

12日 K司教来訪。MM副総長来訪。

古屋司教見舞。

13日 カナダヴィクトール会管区長と面談。(教皇再度暗殺未遂)

14日 (藤堂師酸素吸入使用開始)

15日 洛星訪問。

16日(1)西陣教会創立75周年ミサ。(藤)

17日 邦人司祭月例会。MM総会に挨拶(関西セミナーハウス)

18日 N教会代表来訪。ウィチタ聖ヨゼフ会代表来訪。教理センター理事会。(藤)

20日 「こひつじの苑」創立10年。U師訪問。聖家族訪問。(藤)

21日 司教協議機構検討委(大阪)。(藤)会話交わせず。

22日 (藤)藤堂師の母上、Sr Mゴレツティと面談。

23日(1)富雄教会堅信ミサ。(藤)

24日 (藤)藤堂師午後7時血圧下る。7時7分帰天。(藤)。関係者と緊急相談会。

25日 L師と面談。宮津幼建築契約。

26日 藤堂師通夜(家族中心、九条)

27日 奈良あせびセンター巡礼団来訪。藤堂師通夜(司教座聖堂地下)

6月

5日 司教総会終了。駐日V大使と共に掃洛。洛星夕食会。

6日(1)全国一斉祈禱日(国連軍縮)。

洛星30年ミサ(大使と共に)。

平和ミサ。平和行進。

7日 (V大使北部を司牧巡礼、村上師同伴)

8日 V大使、聖家族、こひつじの苑、太陽の園訪問(園部)。八木町公民館、内藤ジョアン顕彰碑除幕式同伴。

9日 V大使おしるびで「御所」三十三間堂を見学、離洛。

10日 A師来訪。

11日 N師来訪。

12日 Sr T来訪。Mr M来訪

13日(1)高野堅信ミサ。古屋司教見舞。

15日 神学院司教常任委(東京)

16日 同委。信徒使徒職委。

17日 藤堂師追悼ミサ(洛星学園)

18日 司祭評常任委。司祭修士研修準備会。L師と面談。ヌベール会

20日(1)亀岡堅信ミサ。Sr M来訪。

21日 邦人司祭月例会(長岡新聖堂)

22日 善きサマリヤ人会総長と面談。

感謝の典礼

私たちのこころみ

西大和カトリックセンター

建てて九二年、急激な人口増加の割には教会の所在が知られていない西大和カトリックセンター。青年、高齢者は少いが、育ちざかりの子どもを持つ家族信者が中心で、教会の中は自ずと活気が満ちている。主任司祭が難民センターの責任者ということも手伝って、信徒の積極的な活動が望まれもするし、また実際に活発である。典礼に対しても、司祭、信徒両側からの生き／＼とした取組み方が見られる。

信徒数80余、小じんまりとしたこのキリスト共同体は、一人／＼、みんなが何かをやる／＼という気構えを持っている。いきおい典礼の準備の仕方も、家族ぐるみの典礼・当番制というユニークさを生み出した。

土曜日になると、番に当った家族は、親も子どもも揃って司祭と話しあいながら、聖歌、朗読者をきめるなどミサの準備に余念がない。司祭が行動派なら、信徒も新しい提案をどん／＼出すといった工夫。

主日のミサは、子どもたちを前列に、信徒全体が半円形になって祭壇を囲む。

先月から始めたばかりではあるが、子どもたちには各自聖書をミサ中に持たせて

いる。主日当日の福音がどこから出されたか気づかせながら、聖書自身になれ親しんでゆくようにとの心遣いが伺われる。小学、高校各教師、永年の経験を持つ幼稚園教師などによる教会学校での指導が充実していて、典礼のうちに子どもが成長し、更により深い、より新しい典礼を生んでゆくだろう将来が楽しみである。

大祝日には、婦人が焼いたパンを裂きぶどう酒とあわせての両形体の聖体拝領が許される。キリストを中心とした祭の喜びが、この教会では自然に表現され、平和の挨拶も知りあつた兄弟同志と笑顔で確かめあうといった感じ。主日のミサに新しい顔が加わると、見つけた信者が信徒会長、典礼部長に連絡し、必ずミサの終りにその人たちを紹介し、暖い歓迎のこたえを送ることを忘れない。

兄弟的な和やかさは、教会のうちにだけとどまらず、教会行事、教会へのお誘いの書かれたパンフレットを、毎月一回近辺に配る運動をし、福音を多くの人に知らせる努力が続いている。ミサ後も冬は熱いお茶、夏は麦茶が聖堂の下部屋に用意され、共同体のより強い結びつきの場になるようにされている。午後は又求道者の勉強、聖書研究が壮年組で続けられている。私たちの教会は燃えているのです。一信徒のこころに偽りがない(Y)

小山教会

小山教会における日曜典礼の現在の実践段階を、その基本となる考え方と共に紹介してみたいと思います。

ミサの祝いは、神と共同体との対話的構成で成り立っています。一つは神の話しかけの部分であり、もう一つはそれに対する共同体の返事としての聖体の秘跡です。

まずみことばの部分ですが、共同体が神の言葉を理解するには、二つの面が考えられます。ひとつめは聖書の話そのものの理解であり、これには当時の文化・社会に対する知識が要求されます。ふたつめは、現在の私達と関係づけた理解であり、これは司祭、学者に限らず誰れにでも出来ます。「聖霊は一同の上にふき／＼」とあるように、誰れも聖霊を専有することはできません。小山教会では、典礼委員会が翌月の毎日曜の典礼担当を決めます。それは日によって、テーマによ



戸外でのミサも

って、グループであったり個人であったりします。(母の日には婦人会、平和の日には戦争体験者など) 信徒も自由に、いわゆる「説教」の箇所を話をするわけですが、(それが「説教」か「説教」でないかという議論は、それならば神父の話が「説教」か「説教」でないかという議論にもなり、考えさせられます) 要するにみことばの分ちあいが大事なのですから、司祭も信徒も発言し、スライドを見たり、グループ討論をしたり、いろんな形をとります。

そのようにして分かれたみことばは、次に共同体からの返事を要求します。今までは言葉の部分は祭壇の右や左で、聖体の部分は中央で、というふうに、関連性をもって行われていたのですが、その日のみ言葉への「然り」「アーメン」を、聖体の秘跡をとおしてあらわすのであるという考えから、司祭はみ言葉も祭壇中央で読みますし、カリスもはじめから祭壇の上においておきます。奉獻文も共同体の返事ですから、司祭のみでなく全員で読みます。聖体の秘跡が司祭によってのみ、なされなければならないという根拠は新約聖書にはみられません。

以上私達は「ミサのあれこれを「聖」の領域においてやってしまっているわけではない。典礼が日常生活からきりはなされた儀式となつて形骸化する時、それを行う共同体に連帯が生まれるはずもない」という基本線になつて、いろんな模索を行っています。又機会がありましたら御紹介したいと思ひます。(文責/信徒会長)

中小教区の頁中 亀山教会



亀山は、ローソクの町として国内はもとより外国にも知られており、また歴史的にも東海道五十三次の宿場町(城下町)として栄え、今もなお昔を偲ぶ街並が残っている。最近では、名阪国道と国道一号线を結ぶ亀山インターのある地、農業と地場産業の製糸工場を中心とした人口三万五千の小さな町です。

この亀山に福音宣教の種がまかれたのは昭和三十三年、当時津聖心教会の助任

現在亀山教会は、司祭不定住の教会で、毎日曜日ミサのために鈴鹿教会から司祭が通っている状態で、一つの残念なことは宣教する人がそこにはいないことであるが、歴史的に教会の新しい姿、いわゆる聖霊の働かれる時代に入ってきたと考えられる。それは京都教区ビジョンや、メリノール宣教会の方針である信者の自主運営について信者がより熱心に考え、話し合う機会が多くなった。今私は主任司祭として、喜ぶと同時に一番大切に思うことは、信者の強い信仰の土台をつくる

司祭のプラスキ神父だった。師は商店街で店閉まいをした家を借り受け、一階を住居、二階を聖堂に改装し、近所の人々を集めて要理教室が開かれた。

その年の夏、早くも八名が洗礼を受けたのを皮きりにだんだんと信者も増え、昭和三十四年現在の聖堂が建立された。

そして、その年の暮には、古屋司教を迎えて二十五名が堅信の秘跡を受けることができた。プラスキ神父は約九年間の在任中、大人の教理研究グループを作り、土曜学校、日曜学校を設け、英会話教室を開くなどして積極的に活躍され、信者たちも生き生きとしていた。

その後、マッケンジ神父、エグルストン神父、クレチャ神父、ヴィーテングル神父と三年位ずつ目まぐるしく司祭の交代が続いた。その頃、当地でも高度成長の波にのり、若者は都心に流れ、昼間町に残るのは店を守る忙しい人と老人ばかりと言ってもいい有様だった。また、信者達も

ことである。自主運営のために組織や形を早くつくることは容易である、けれどもキリストへの信仰と愛、キリストに従

司祭の移動に影響されてか、しだいにミサに与る信者は少なくなり、今まで続いているのは残念ながらごく僅かである。ヴィーテングル神父の時代に、幾分活気を取り戻したものの、昭和五十一年からは司祭不在の教会となった。日曜日のミサには鈴鹿教会から司祭を迎えることになり、スミス神父、ゴールマン神父、そして現在のギルマーチン神父と続き、今日に至っている。

現在、鈴鹿教会の巡回教会として週一回朝八時から主日の御ミサがあり、ミサの後に信者の集いを開き、「自分たちの教会」について話し合うことが慣例となっている。信者数六十五名、世帯数三十一軒という家庭的な教会であるが、ここ二、三年、転入や受洗によって信者も増えつつあり、教会活動の充実を目指してみなでがんばっている。

表面的なこととして、五年前に納骨堂を建設し昨年は聖堂の屋根改装を行った。

座(コロンバン教会企画、週一回、一年間)が開講され、幸いに亀山教会からは四人の信者がこのメンバーに参加している、これによって真の自分と出合い、そしてキリストと出合い、キリストによって集められた兄弟姉妹の真の交り、強い信仰と愛が育ち、将来の教会のために、よりしっかりと土台のあるリーダーのグループが生まれることを、感謝と喜びの心で期待している。

(ギルマーチン神父)

未来の教会



未来の教会

この二つの工事は、数少ない信者には物資両面にわたる大きな犠牲となったが、それも「今日あるものは明日のため」という信者一同の一致した考えがあったからこそ……と振り返っている。神に感謝。また、暮のクリスマスには、市内の音楽グループによるリコーダーの演奏が教会で行われたが、それを契機として今年から聖歌の練習を始め、大人も小人も美容体操を兼ねて賛美の歌を一生けんめい歌っている。

今年の信徒会の目標は、「信者間の連絡や話し合いを密にし、諸活動を通して和を高める」で、初歩的な体制固めから外に向っての宣教と愛の奉仕活動へ歩む方向を打ち出している。この外、教会の主な行事としては、典礼暦の祝い、教会学校、聖書研究、公教要理の再勉強、夏休みの小旅行等を催しているがより多く、の人が参加できるよう。早し良し、普通危し、遅し悪し。の合い言葉をモットーに連絡し合っている。隣りの関町では、公民館を借りて鈴鹿のシスターを中心にした月三回の研究会と、月初めの主日のミサを行い、その外、特別な行事の時は鈴鹿教会に仲間入りさせて頂き沢山の恵みを受けている現状です。

最後になりましたが、四月から「ときわハウス」のザン神父が当教会を手伝って下さることを聞き喜んでいますが、司祭に甘えることなく小さな兄弟が新たな信仰の回心に向って、一步一步神の国の実現のために努力していく覚悟です。

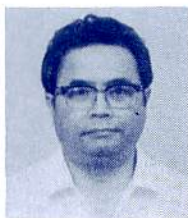
最後になりましたが、四月から「ときわハウス」のザン神父が当教会を手伝って下さることを聞き喜んでいますが、司祭に甘えることなく小さな兄弟が新たな信仰の回心に向って、一步一步神の国の実現のために努力していく覚悟です。

最後になりましたが、四月から「ときわハウス」のザン神父が当教会を手伝って下さることを聞き喜んでいますが、司祭に甘えることなく小さな兄弟が新たな信仰の回心に向って、一步一步神の国の実現のために努力していく覚悟です。

最後になりましたが、四月から「ときわハウス」のザン神父が当教会を手伝って下さることを聞き喜んでいますが、司祭に甘えることなく小さな兄弟が新たな信仰の回心に向って、一步一步神の国の実現のために努力していく覚悟です。

最後になりましたが、四月から「ときわハウス」のザン神父が当教会を手伝って下さることを聞き喜んでいますが、司祭に甘えることなく小さな兄弟が新たな信仰の回心に向って、一步一步神の国の実現のために努力していく覚悟です。

ビジョン具体化に向けて



京都教区ビジョンは、昨年十一月二十三日に宣言されました。これは、御父、御子、聖霊によって、一つに集められた神の民（ビジョン宣言文）である私たちが、今日までしてきたこと、しなかったこと、今からすべきことを謙虚に見直す。ことから始めて、その集約の結果宣言されたのであって

私たちすべてが、この宣言に関りを持ち、その実行について問いかけてあります。

「社会とともに歩む教会」というテーマを持って宣言されたこのビジョンは、私たちが今までのように、教会の内部に閉じこもって、自分だけの信仰を守ってゆけばよいというのではなく、すべての人々と関りを持って、その中に働いておられるキリストと共に働くことを求められています。それには、教会共同体の一員である私たちの自己刷新が先ずなされなければなりません。

ビジョンの具体化については、一今まで行なわれていなかったことで、今行なわれていること、一今まで行なわれてきたことで、今行なわれないこと、一これから行なおうとしていることで

今明らかになっていないこと。これらのことを、ビジョンとの関りの上で明らかにされ、位置と方向づけがなされる必要があるのではないだろうか。そして又、ビジョンそのものをよく理解するための集いを持ち、その集いを通して、何をどのように具体化してゆくかを話し合い、形造りをする努力も大切であり、それらのことを、各家庭での集りで、小教区で、各地区で、教区レベルで、話し合い、分ち合い、集約され、再び信徒一人一人にまで還元されてゆくことで、中広い動きとなり、力付けられてゆくのではないだろうか。

「社会と共に歩む教会」といっても数の上では、実に力のない者の集りに過ぎま

寝ながら、トンマもぐら
がこう呟いた。とにかくこの
世は住みにくい。住みにくさが
高じると住み易い所へ引越した
くなる。この時一つの叫び声
を聞いた。こら考えの盗作は
ならぬ。お前の考え
を告白せよ。

海も地も空も神をた、え

平和と幸せを祈り

昼寝をしていたら突然上から大きなシャベルが落ちて来て、私の家をこわし、何日かしたら、せつかく私が作った抜け道をこわされ大きな横道となり、大きなバケモノがゴーゴーと地響きたてて走りまわるようになった。聞くと、人間様が地下の生活を始めたらしい。それは結構、我々被造物としては、親愛なる人間に向けて造られたの

大地を何とどころえる。大地は地上に食物を与え、食物は人間には命を与える。それなのにその大地を汚すとは、しかもその爆弾も自分達自身を殺すものであると聞くではないか、我々だけが苦しむならがまんしよう、然し自分達を殺す事を目するとは我々の善意を何とどころえ

この間、海の仲間に聞けば、どうも彼らの住居が、汚物の捨て場になっておるとか、そのために体に変調を来し、今まで自らを食べられる事を何よりの喜びとした幸せもなく、捨てられていく運命にあるものが多くあるとか。その事を真剣に悩みつつ祈っておつたら、どこからか賛美歌の音がひびいた。聖なる好奇心にさそわれて地上をのぞいてみると、核兵器反対の静かなデモ行進が行く所だった。ニューヨークの仲間からも反核嘆願の使節が着いたとか、ああ少しづつ歩み始めた。平和のために祈つとります。祈りだけでは駄目かも知れませんが、これしか平和を得る手段はないかもしれんのですよ。M

せん。しかし、「あなたがたが私を選んでのではなくて、私があなたを立てたのだ。私があなたを立てたのは、あなたがたが行って実を結び、その実をのこすため（ヨハネ15）に選ばれた者であり、」これらのことを、知恵のある人、かしこい人にかくして、小さい人におあらわしくださいました（マテオ11）の民であるならば、私たちの中に、キリストが生きて働いていられる筈であり、それはもう、私たちが働こうとしているのではなく、私たちが中で生きて働いていられるキリストが働こうとされているのです。ミサ聖祭によって強められた私たちには、そのことが可能であり、たとえ私たちが少数であっても、キリストの働きは素晴らしい大きく、見事な実を結ぶでしょう。

本当のことをいえば、教区ビジョンを具体化し実行に移すことは、私たちには大変気の重い努力のいることです。それは、私たち自身をキリストに向けて刷新してゆく道であるからです。然し「私は世の終りまで常にあなたたちと共にいる（マテオ28）この御言葉に支えられ、」さあ行くがよい。私があなたたちを送るのは、ちょうど狼の中に小羊を送り込むようなものである（ルカ10）狼の多い社会に、キリストの小羊として、小羊のように従順に、謙虚に、そして、小羊の痛みを分かち合える者としての他人への愛があるならば、努力なしに喜びのうちに聖霊によって与えられたこのビジョンを具体化して行けるのではないのでしょうか。

ネパール



大木師

ネパールは開発の遅れた未開の国であり、その中で40パーセントの人々は極貧の状況にある。

として私が赴任することになった。現在の仕事は実際には知恵遅れの子供たちだけではなく、近所のお百姓や人々の医療活動、読み書き出来ない大人たちのための習字の教室等も行っている。施設では少数の極く限られたアブローチしかできないため、もう少し拡大していきたいと考えている。又、去年小教区が発足できれば、町の中心部に土地を持って、聖堂、司祭館、教室等を持ちたいと奔走している。

日本人シスター3名と共に患者の治療、患者の家族の健康管理、彼らの生活レベル向上のために奔走されている。遠い南米の宣教地で四分の一世紀を過ごしたとは思えぬわらかい物腰と笑顔の同師は「何とかしなければ、自分の仕事は先細りしてゆくのが目に見えているので……」と日本からの様々な応援の方法を語られた。医療、社会福祉センター建設のための募金活動、一般市民と患者に、ハンセン氏病に関する正しい知識を与える指導など日本からの応援が求められている。

ブラジル宣教24年という佐々木治夫師

社会と共に歩む人物記(4)

ネパール・ブラジルに福音をたずさえて

大木章次郎師
佐々木治夫師

伝えられ、新教室の設置要請が各地から寄せられていた。

広島の高度心身障害児等のボランティア活動を通じて与えられた尊い経験と知識が、このネパールの新たなプロジェクトへ踏み出す大きなステップとなり頂度、学年度の変わりめでもあり、イエズス会と学校との了解を取りつけ、未踏の処女峰に対する挑戦にとりかかった。

まず要請のあった候補地へアダム神父の教室で訓練を受けたネパール人のスタッフたちと下見分し、研究を重ねて最初の地方進出はボカラと決定。その責任者

(横浜教区出身)を京都に迎えて、その活躍ぶりを伺ってみる。

1958年2月5日曜日、45日の航海のはて、ブラジルに日本26聖人の祝日でもあり、両親の結婚記念日にも当たった日に上陸。以来同国南部のサンジェロニモ・タ・セーラ村で日系人への宣教活動を始められる。佐々木師の方針は、日系人教会を作るのではなく、日系人信者の養成、現地人にとけこみながら現地の小教区に属してゆくように宣教すること。現在は210人のハンセン氏病患者、千を越す患者の家族を対象にしたフマンタス救済事業後援会の会長の席にあり、



佐々木師

(57年6月1日 文責Y)

〒158 東京都世谷区田

深沢 6-34-18

志立方

電話 03-705-2291

「生きる苦しみと喜びをキリストの宣教者として、自分の生命をかけてブラジルの人々の中に働かれ

る同師は、自身の宣教活動を語りながら、日本と同じように働く外国宣教者をもっと大事にするようにと話されたことが印象に残った。また互いに、あったかいキリストの愛で接しあろうことの大事さを楽しみ、と語られ、宣教は足元からと悟った。



時報が対話 おう」書く手段なら 者も読む者 ば「互いに も、投稿者 心を開けあ も編集者も

◆ペンを持ってさあ考えた、何かと書かねばならぬ……さっぱり書けぬ、何故？ たぶん相手を意識するから。いやむしろ自分を意識するから、よい恰好をしたから。そこで考えた。ままよ。するといつの間にか行間がうまつていく。心貧しき人は辛い。無我の心に宝つまり、空白はうまる。常に心貧しくありたい(MT)

◆マネするな！と叫んでいる編集長の前でペンを走らせるのは余程の度胸が要る。とはいってもM.T師は至極物解りのよい協力者。通算五年間、持ちつ持たれつの仕事をして、恰好をつけず、常に虚心担懐、そしてまわりにやさしい心遣いをする人と覚えた。こちら我を張り、ボロを出しつつ放しの内そと貧しき人。(Y)

◆聖霊の導びきか、このようなお仕事をしてみたいなあ！と書いていますところへ耳よりな話。時報のお手伝いをさせていたくことになりましたが、アレヨノアレヨノという間に日が過ぎて、何んのお仕事をしたいのやら……

この次はお恵みをいたゞいて、もっとしっかり頑張らなくてはと思っています。よろしくお願ひします。

(K)

訂正 前月号掲載のKCC総会文中に鈴鹿教会とあるのは、上野教会の誤りに付深くお詫びして訂正いたします。